

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)中之組沢		
事業毎の通番	1	市町村名	青木村	箇所名(ふりがな)	入田沢(いりたざわ)	
事業目的	本溪流は青木村の田沢に位置する流域面積0.19km <sup>2</sup> の土石流危険溪流Ⅱである。河床勾配が急峻で、次回降雨で直下に存在する人家25戸、緊急輸送路に指定されている国道143号等に被害のおそれがある。 溪床には崩土が堆積、また、転石も多数存在しており、豪雨時における土石流の発生が懸念されるため、砂防堰堤を整備し、土砂災害の防止を図りたい。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等	-					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家25戸、国道143号(緊急輸送路)、きだち団地集会所					
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2023(平成35年度)	費用対効果	8.9		国庫	その他
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基			200,000	100,000	90,000 10,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家25戸、国道143号(緊急輸送路)、きだち団地集会所の保全				
	間接的効果(定量的・定性的)	土砂災害特別警戒区域の指定が解除される				
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】 25戸 【保全公共施設】 国道143号(緊急輸送路)、きだち団地集会所 【要配慮者利用施設】 なし 【避難場所・避難路】 国道143号(緊急輸送路)				評価
	重要性	【災害履歴】 当該流域はないが、H22に近隣の沢で土石流が発生し、一部損壊3戸、床下浸水5戸の被害が発生 【交通影響】 国道143号(緊急輸送路)、村道 【位置付け】 長野県及び青木村の地域防災計画に記載あり				評価
	効率性	【費用対効果】 8.9 【早期効果発現】 事業期間:5年 【工法等比較検討】 堰堤形式を比較検討する予定(概略設計) 【総合調整】 保安林の有無を林務部に確認済み				評価
	緊急性	【地形地質】 地質が脆弱(火山岩) 【流域植生】 放置林 【平均溪床勾配・土砂整備率】 勾配:10°以上・0% 【危険地区】 土砂災害防止法に基づく「土砂災害特別警戒区域」あり				評価
	計画熟度	【情報共有】 青木村(地元住民)から要望あり 【地域要望】 青木村(地元住民)から要望あり 【合意形成】 青木村(地元住民)から要望あり 【住民参加】 住民参加型の防災マップ・自主避難計画をH24に作成済。				評価
所管課意見	当該溪流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている緊急輸送路が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。			採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。			○	A	

**位置図**

**流域・保全対象**

**溪床の状況**

**平面図**

保安林

きだち団地集会所

緊急輸送路

基準点(整備率0%→100%)  
流域面積 A=0.19km<sup>2</sup>

保全対象が、土砂災害特別警戒区域等に位置している

保全対象を守るため、砂防堰堤を整備

**事業概要説明図表**

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本溪流は青木村の田沢に位置する流域面積0.19km <sup>2</sup> の土石流危険溪流Ⅱであり、河床勾配が急峻で、次回降雨で直下に存在する人家25戸、緊急輸送路に指定されている国道143号等に被害のおそれがある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	青木村を通じ、地元住民から砂防堰堤設置について県に要望されている。
③事業説明等の経緯	青木村に事業説明済み(H29.4)。青木村を通じ、地元住民から砂防堰堤設置について県に要望されている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	上小管内において、土砂災害防止法に基づくソフト対策(地区防災マップの作成)について取り組んでいる。青木村においては未着手であるが、地域の意向を確認しながら取り組んでいきたい。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	周辺環境への影響を抑えることも観点に、設計・工法等の検討を行う予定。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、溪流の安全度が高まり民生の安定が図られ、地域防災力の向上が期待される。
⑦その他	砂防指定地申請予定

事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 14' 25"
	東経:E 138° 15' 28"

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)蟹沢(がんだわ)				
事業毎の通番	2	市町村名	岡谷市	箇所名(ふりがな)	三沢(みさわ)			
事業目的	蟹沢は、岡谷市の西部に位置し、地質は火山砕屑岩類からなる流域面積0.08km <sup>2</sup> の土石流危険渓流Ⅰである。降雨より直下に存在する人家273戸、県道下諏訪辰野線、避難所、要配慮者利用施設に被害のおそれがある。平成18年7月豪雨の際は、雨水が渓流や田んぼからあふれ出し、山道や市道を川のように流下し、保全対象に被害をもたらした。したがって、土石流発生時には大きな被害や影響を及ぼす危険がある。砂防堰堤を1基整備し、土砂災害を未然に防止する。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
関連する事業、計画等	なし							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	ケアハウス高尾【災害時要配慮者利用施設(24h)】、つるみね保育園【要配慮者利用施設、地域防災計画に記載の避難所】、県道下諏訪辰野線【第一次緊急輸送路】、人家273戸							
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2024(平成36年度)	費用対効果	41.4		国庫	その他	県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基			450,000	225,000	202,500	22,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	災害時要配慮者利用施設の保全。重要交通網の保全。避難所の保全。 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域の解消。						
	間接的効果(定量的・定性的)							
評価の視点	必要性	【保全時人家戸数】 人家273戸 【保全公共施設】 つるみね保育園、県道下諏訪辰野線 【保全災害時要配慮者利用施設】 ケアハウス高尾 【避難場所】 つるみね保育園					評価	A
	重要性	【災害履歴】 災害履歴地(平成18年7月豪雨) 【交通影響】 県道下諏訪辰野線(第一次緊急輸送路) 【位置づけ】 長野県地域防災計画(第一次緊急輸送路)、岡谷市地域防災計画(要配慮者利用施設、避難所)					評価	A
	効率性	【費用対効果】 B/C=41.47 【早期効果発現】 事業期間6年 【工法等比較検討】 堰堤配置、形式等について比較検討 【総合調整】 保安林がないことを林務課に確認済み					評価	A
	緊急性	【地形地質】 地質が脆弱(風化岩地帯 第三紀層、第四紀層) 【地域植生】 倒木が多数 【平均渓床勾配・土砂整備率】 勾配10.3° 整備率0% 【危険区域】 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域あり(D-04-204-069)					評価	A
	計画熟度	【情報共有】 H30.4 岡谷市、三沢区に事業を説明 【地域要望】 岡谷市、三沢区が事業に協力的 【地域要望】 H30.4 岡谷市、三沢区に事業を説明 【住民参加】 H29.9 三沢区自主防災組織防災訓練の実施(年1回)					評価	B
	所管課意見	当該渓流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている要配慮者利用施設及び緊急輸送路、避難所が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。				採択状況	総合評価	○ A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

**位置図**

岡谷市 下諏訪町 諏訪市

**計画位置**

**下流域状況**

ケアハウス高尾

**土砂法指定状況**

D-04-204-069  
蟹沢上流  
(土砂法:平成20年3月指定)

**保全対象**

ケアハウス高尾(要配慮者利用施設)24h

つるみね保育園(要配慮者利用施設、避難所)

ケアハウス高尾

つるみね保育園

(主)下諏訪辰野線

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	下流域には宅地が集中し、第一次緊急輸送路である県道下諏訪辰野線が通っている。また、要配慮者利用施設や避難所が位置するため、速やかな土砂災害対策が必要となっている。よもぎ川には、不安定な渓床堆積物と倒木が多く、降雨による土砂流出の危険性が高く、地元要望も強い。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成18年7月豪雨災害を受けて、周辺渓流において砂防堰堤を施工したこともあり、岡谷市及び地元地区から事業に協力的である。平成18年7月豪雨災害を経験しており、防災意識が高い地域である。
③事業説明等の経緯	平成30年4月に調査について地元関係者に説明を実施し、事業目的について合意が図られた。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	諏訪地域振興局林務課に保安林の指定状況を確認し、保安林の指定はなかった。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	よもぎ川は流域面積が比較的大きく、渓床幅も大きい渓流である。渓床勾配は比較的急である。渓床堆積物の表面形状は水平で、植生は草木あるいは高木が主体をなす。堆積物はやや厚く、粒径は主に砂泥である。周辺環境への影響を抑えることも観点に、設計・工法等の検討を行う実施。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、よもぎ川の安全度が高まり民生の安定が図られ、地域防災力の向上が期待される。
⑦その他	土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり(D-04-204-069)

事業代表地点の緯度経度

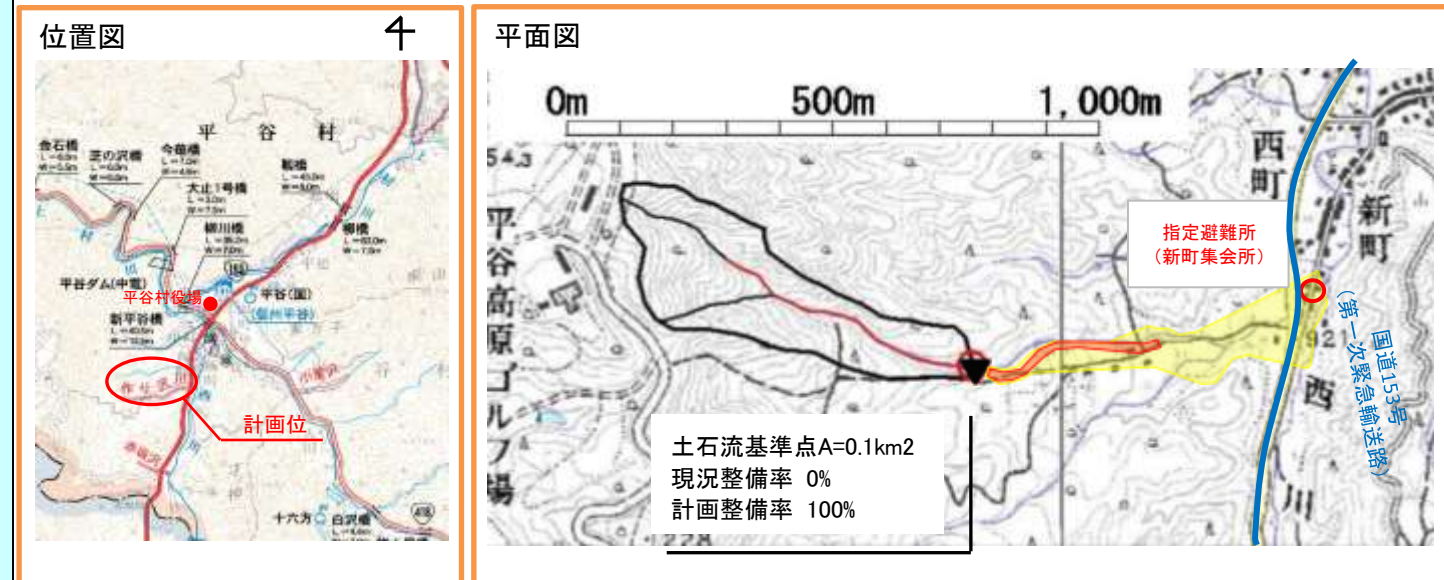
北緯:N 36° 03' 21" 00  
東経:E 138° 01' 15" 00

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)作り道沢				
事業毎の通番	3	市町村名	平谷村	箇所名(ふりがな)	新町(しんまち)			
事業目的	作り道沢は、平谷村を流れる、急勾配溪流である。山間部の土石流区間は、V字谷を形成し山腹崩壊による土砂生産源となっている。河床勾配が約1/10と非常に急峻で一度豪雨が起きれば土石流の発生する危険性が高く、下流に多くの被害が発生する懸念がある。荒廃の著しい当流域において、土石流からの直下流の保全対象として、人家6軒、指定避難所(新町集会所)、国道153号があるため、本溪流を砂防堰堤を設置し、民生の安定を図る。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
関連する事業、計画等	-							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全人家6戸、(国)153号(1次緊急輸送路)、新町集会所(指定避難所)							
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2023(平成35年度)	費用対効果	3.1		国庫	その他	県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基			300,000	150,000	0	135,000 15,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家6戸、新町集会所、国道153号の保全						
	間接的効果(定量的・定性的)	土砂災害特別警戒区域の指定が解除される						
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】:6戸 【保全公共施設】:国道、集会所 【避難場所、避難路】:新町集会所					評価	B
	重要性	【災害履歴】:災害履歴地(平成12年台風14号豪雨) 【交通影響】:国道153号 【位置づけ】:地域防災計画上の位置付けあり(避難所)					評価	A
	効率性	【費用対効果】:3.1 【早期効果発現】:事業期間 5年 【工法等比較検討】:砂防計画策定時に検討を実施					評価	A
	緊急性	【地形地質】:風化花崗岩 【流域植生】:倒木が多数 【平均河床勾配・土砂整備率】 勾配10° 整備率0% 【危険地区】:土砂災害特別警戒区域指定(D06-409-022)					評価	A
	計画熟度	【情報共有】:関係者を中心に周知 【地域要望】:平谷村から要望がある。 【地域合意】:事業目的には合意 【住民参加】:新町地区地区防災マップ(住民主導型警戒避難体制の構築)の作成(H29)					評価	B
	所管課意見	当該溪流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている避難所及び重要な幹線道路である国道153号があるため、速やかな土砂災害対策が必要である。				採択状況	総合評価	○ A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



【整備の必要性がわかる状況写真等】



① 砂防堰堤設置予定箇所  
② 倒木が多数堆積している  
③ 新町集会所(指定避難所)

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	作り道沢は、土石流危険溪流であり想定氾濫区域には人家6戸の他、指定避難所である新町集会所及び第一次緊急輸送道路の国道153号がある。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成12年に出水が発生したことから、H26年に土砂災害防止法に掛かる説明会及び、毎年の要望時に地元から新規事業化の要望を受けている。	
③事業説明等の経緯	H26年に土砂災害防止法に掛かる説明会において、事業化の可能性があることを説明している。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	土砂災害防止法に基づくソフト対策の取り組み	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	砂防堰堤が整備されることにより、安心安全な生活環境に寄与する。今後周辺環境への提供を抑えることを念頭に砂防施設の設計を進める予定。	
⑥地域活性化への影響と配慮	土石流対策施設の設置により緊急輸送路である国道153号の安全が図られ、地域防災力の向上に寄与する。	
⑦その他	砂防指定地申請予定	
	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 37' 17" 00 東経:E 35° 18' 55" 30

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)牛伏川					
事業毎の通番	4	市町村名	松本市	箇所名(ふりがな)	牛伏(うしぶせ)				
事業目的	(砂)牛伏川は、古くから土砂の流出が激しい地域であったため、明治初期から山腹工事、流路工事が実施されている。当時植栽されたニセアカシアの老朽化に伴い、倒木が激しく多量の土砂が溪床に流出している。このため、ニセアカシアを在来種へ林相を転換し、流域の荒廃を防止することにより、下流保全地域の安全確保を図りたい。								
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法					
関連する事業、計画等	-								
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家309戸、中信松本病院、寿台養護学校、(主)松本塩尻線								
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
完成年度(見込み)	2027(平成39年度)	費用対効果	12.4	国庫	その他	県債	一般財源		
全体事業内容(主な工種)	山腹工(林相転換) A=470,000m <sup>2</sup>			300,000	150,000	0	135,000	15,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家309戸、中信松本病院、寿台養護学校、(主)松本塩尻線等の保全が図られる。							
	間接的効果(定量的・定性的)	要配慮者利用施設を保全することで、住民の安全が確保される。							
の	必要性	○人家戸数 : 309戸 ○公共施設数 : 中信松本病院、寿台養護学校、(主)松本塩尻線、市道、公民館 ○要配慮者利用施設の有無 : 寿台養護学校 ○避難場所、避難路の有無 : なし					評価	A	
	重要性	○過去の災害履歴 : 災害履歴地(S58年台風、H16年台風) ○交通遮断による地域経済への影響 : (主)松本塩尻線 ○地域防災計画上の位置づけ : 寿台養護学校(要配慮者利用施設)					評価	B	
	効率性	○費用対効果(B/C) : 12.4 ○事業期間 : 9年間 ○工法等の比較検討 : 植生工法の比較 ○流域の総合調整 : 林務課協議済み(保安林内)					評価	A	
	緊急性	○流域の地形、地質 : 地質が脆弱(第三紀層) ○流域の植生 : 倒木が多数 ○平均溪床勾配 : 12.5° ○土砂整備率 : 86.6% ○土砂災害防止法指定区域 : 指定なし					評価	B	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者以外にも周知(シンポジウム(H30.10予定)、現地見学会(H30.6.9予定)) ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある(関係者による検討委員会において事業計画を立案(H30.9予定)) ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている(関係者合意による事業の実施(H30.9予定)) ○住民との協働 : 住民参加型の事業(愛護団体による維持活動)					評価	A	
所管課意見	当該溪流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている要配慮者利用施設が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。					採択状況	○	総合評価	A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。								

事業概要説明図表

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景  
江戸期の森林乱伐等により広大な崩壊地が形成され、繰り返される土砂災害に対し明治期より砂防事業が行われてきた。当時植樹されたニセアカシアが優占種となり森林が復元されたが、老齢期を迎えたニセアカシアが倒伏し、新たな斜面崩壊を起こしている。このため、在来種への影響も懸念されるニセアカシアを在来種へ林相を転換し、山腹の安定を図るものである。

②地域からの要望経緯及び地域の関わり  
災害履歴地であることから地元から早期対策を要望されている。

③事業説明等の経緯  
学識者、地元区、市町村等からなる検討委員会を立ち上げ、林相転換の手法等事業計画を立案している。

④他事業・プロジェクトとの整合、関連  
上流域は林相転換事業により山腹工を実施し、中流域を治山で森林整備を行っている。

⑤自然環境・生活環境への影響と配慮  
在来種に配慮した林相転換事業を実施する。

⑥地域活性化への影響と配慮  
本事業により、溪流の安全度が高まり民生の安定が図られ、地域防災力の向上が期待される。

⑦その他  
牛伏川階段工が重要文化財に指定されている。

事業代表地点の緯度経度

北緯: N 138° 1' 30" 38  
東経: E 36° 9' 42" 22

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		通常砂防事業		路河川名等	(砂)天満南沢(てんまみなみざわ)					
事業毎の通番		5	市町村名	安曇野市	箇所名(ふりがな)	有明(ありあけ)				
事業目的	天満南沢は、土石流危険渓流(ランクⅠ)であり、土砂災害特別警戒区域に指定されている。渓床には不安定な状態の土砂が堆積し、近年流出した土砂も認められる。下流に対策施設がないため、土砂の下流部流出の恐れが高い。また、保全対象は、家屋が270戸と多く、主要地方道塩尻鍋割穂高線も含まれるため、砂防施設整備等により民生の安定を図りたい。									
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法						
関連する事業、計画等	なし									
保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全対象： 人家270戸、主要地方道塩尻鍋割穂高線、市道、HATA楽工房(要配慮者利用施設)、集会所2箇所									
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)					
完成年度(見込み)	2025(平成37年度)	費用対効果	80.5		国庫	その他	県債	一般財源		
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 2基			440,000	220,000	0	198,000	22,000		
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	想定される土石流を捕捉する施設の整備により、土砂災害に対し人家270戸、主要地方道、市道、要配慮者利用施設、集会所等の保全が図られる								
	間接的効果(定量的・定性的)	土砂災害特別警戒区域の指定が解除される								
評価の視点	必要性	○人家戸数：土砂災害警戒区域内における保全対象 人家270戸 ○公共施設数：2箇所(中矢村集会所(1.7km)、南矢村集会所(2.1km)) ○要配慮者利用施設の有無：有り(HATA楽工房(1.4km)) ○避難場所、避難路の有無：無し(有明の森保育園(2.7km)：区域外)						評価	A	
	重要性	○過去の災害履歴：土砂流出履歴あり(H16) 下流県道橋梁部で土砂埋塞し、避難勧告あり ○交通遮断による地域経済への影響：影響大(主要地方道塩尻鍋割穂高線(山麓線)) ○地域防災計画上の位置づけ：県および市町村の両方に位置付けあり						評価	A	
	効率性	○費用対効果(B/C)：80.53 ○事業期間：7年間 ○代替案の検討：工法検討中 ○流域の総合調整：H29.12月 県林務課と協議済み						評価	A	
	緊急性	○流域の地形、地質：有明B型花崗岩 ○流域の植生：上流域に無林地(崩壊地)が多数見られる ○平均渓床勾配：11.3° ○土砂整備率：0% ○土砂災害防止法指定区域：D09462017 天満南沢						評価	A	
	計画熟度	○事業情報の共有：H29.12月 関係地権者との協議を実施済み ○地域の取り組み：協力的である ○地域の合意形成：H29.12月 関係地権者との協議を実施済み ○住民との協働：特になし						評価	B	
	所管課意見	当該渓流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている要配慮者利用施設が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。						採択状況	○	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。									

【位置図、平面図、構造図等】

**位置図**

**平面図**

**構造図**

1号砂防堰堤

H=8.5m

L=38.0m

2号砂防堰堤

H=13.0m

L=70.0m

**要配慮者利用施設(HATA楽工房)**

**事業概要説明図表**

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	天満南沢は、土石流危険渓流(ランクⅠ)であり、土砂災害警戒区域にも指定されている。渓床には不安定な状態の土砂が堆積し、近年流出した土砂も認められる。下流に対策施設がないため、土砂の下流部流出の恐れが高い。また、保全対象は、家屋が270戸と多く、主要地方道塩尻鍋割穂高線も含まれる。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	安曇野市から要望を受けている。
③事業説明等の経緯	H29.12月、関係地権者との協議を行い、砂防計画について説明を実施している。H29.12月、県林務課と協議を行い、事前調整を実施している。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	土砂災害防止法に基づく特別警戒区域に該当する。(D09462017 天満南沢)
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	H30.5月、流域調査を実施するとともに、施設配置を検討中。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により災害に強いインフラ整備がされ、保全対象の安全・安心が期待される。
⑦その他	

**事業周辺環境**

⑦その他		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 49' 4.89"
			東経:E 36° 22' 4.67"

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防		路河川名等		(砂)ヤナバ沢1			
事業毎の通番		6	市町村名	大町市	箇所名(ふりがな)	やなば			
事業概要	事業目的	ヤナバ沢は土石流危険渓流であり、不安定土砂が多く、豪雨時の災害が懸念されている。下流には公的施設(築場駅、湖端公民館)の他に人家40件が点在している。また、JR大系線や、第一次緊急輸送路に指定されている国道148号もあり、地域の安心・安全を確保するため、当該渓流において土石流施設の設置が急務となっている。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
	関連する事業、計画等	-							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家40戸、JR大系線(築場駅)、国道148号(第1次緊急輸送路)、湖端公民館							
	着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2024(平成36年度)	費用対効果	7.1		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基			500,000	250,000	0	225,000	25,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家40戸、JR大系線(築場駅)、国道148号(第1次緊急輸送路)、湖端公民館							
	間接的効果(定量的・定性的)	第1次緊急輸送路に指定されている国道148号を保全することにより、災害時の輸送が確保される							
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】 40戸 【保全公共施設】 国道148号(第1次緊急輸送路)、県道 【避難場所・避難路】 避難所施設、国道148号(第1次緊急輸送路)					評価	A	
	重要性	【災害履歴】 H29.4土石流出 【交通影響】 国道148号(第1次緊急輸送路) 【位置付け】 長野県、大町市両方の地域防災計画に記載あり。					評価	A	
	効率性	【費用対効果】 7.1 【早期効果発現】 事業期間:6年 【工法等比較検討】 堰堤形式を比較検討する 【総合調整】 保安林が無いことを林務部に確認済					評価	A	
	緊急性	【地形地質】 地質が脆弱 【流域植生】 放置林 【平均渓床勾配・土砂整備率】 10° 以上 【危険地区】 土石流災害防止法に基づく土石流災害警戒区域あり					評価	A	
	計画熟度	【情報共有】 調査時に地区へ文書を回覧。 【地域要望】 近年土石流出が発生したことから、関心が高まっている。 【合意形成】 調査時に自治会代表者と協議。 【住民参加】 未実施。					評価	B	
	所管課意見	当該渓流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている避難所及び重要な幹線道路である国道148号があるため、速やかな土石流災害対策が必要である。				採択状況	○	総合評価	A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。								

事業概要説明図表

位置図

概要図

保全対象写真

湖端公民館

大町市地域防災計画にて避難所指定となっている

土砂流出写真

下流のため池堤体の損傷

人家付近へ土砂流出

(国) 148号

第1次緊急輸送路に指定されている

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	流域面積0.27km <sup>2</sup> の土石流危険渓流Iである。河床勾配が約1/4と急峻で、次回降雨で直下に存在する人家40戸、避難所(1施設)、緊急輸送路に指定されている国道148号、JR大系線等に被害のおそれがある。渓床には崩土が堆積、また、転石も多数存在しており、豪雨時における土石流の発生が懸念されるため、砂防堰堤を整備し、土石流災害の防止を図りたい。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成29年4月に当該渓流より土石流出が起こり、下流に位置するため池が損傷したほか、市道にも流出土砂が達した。地元区では今まで以上に防災意識が高まっている。
③事業説明等の経緯	役場や地元自治会役員の意見を伺い概略的な計画(新規堰堤計画位置)を検討していく予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	周辺環境への影響を抑えることも観点に、設計・工法等の検討を行う予定。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、渓流の安全度が高まり民生の安定が図られ、地域防災力の向上が期待される。
⑦その他	計画に堰堤位置や構造について比較検討を行いコスト削減を図る。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 35' 36.94"

東経:E 137° 51' 25.13"

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)矢ノ口沢				
事業毎の通番	7	市町村名	千曲市	箇所名(ふりがな)	倉科(くらしな)			
事業目的	本溪流は、千曲川右岸に位置する三滝川の支川で流域面積0.1km <sup>2</sup> の土石流危険溪流である。土石災害警戒区域内には保全人家153戸の他、要配慮者利用施設 障害者支援施設の顕真学院や避難所の倉科公民館も含まれている。流域内は荒廃が進み河道内に不安定土砂が多く堆積して、倒木も多数存在するため、土石流の発生が懸念される。よって、砂防堰堤の整備により、下流保全域の人命及び財産の保全を図るものである。							
しあわせ信州創造プラン 2.0 における位置付け	4-1 県土の強靱化 (災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
関連する事業、計画等	千曲市地域防災計画							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全人家153戸、障害者支援施設 顕真学院、避難所 倉科公民館、県道白石千曲線864m、市道4,959m							
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2024(平成36年度)	費用対効果	57.5	千円	国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基			320,000	160,000	0	144,000	16,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	土石災害特別警戒区域の解除 要配慮者利用施設、避難施設を保全対象に含む土石流危険溪流の対策						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の安全性向上による定住化						
評価の視点	必要性	○人家戸数 : 153戸 ○公共施設 : 県道、一級河川、公民館 ○要配慮者利用施設 : 障害者支援施設 顕真学院 ○避難所 : 倉科公民館						評価 A
	重要性	○過去の災害履歴 : なし ○交通影響 : 大(県道及び市道の遮断により孤立人家あり) ○地域防災計画上の位地づけ : あり(長野県及び千曲市地域防災計画)						評価 B
	効率性	○費用対効果(B/C) : 57.5 ○事業期間 : 6年間 ○工法等の比較検討 : 設計時に検討 ○流域の総合調整 : 調整済み(保安林なし)						評価 A
	緊急性	○流域の地形、地質 : 脆弱(第三紀層) ○危険地区 : 土石災害警戒区域に該当 ○流域の植生 : 荒廃が進み倒木多数あり ○平均河床勾配 : 10° 以上(16.4°) ○土砂整備率 : 現況 0%						評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 千曲市及び地区役員と情報を共有(H30.4.20) ○地域の取り組み : 地区役員から要望あり ○地域の合意形成 : 事業目的について、地区役員と合意が図られている。 ○住民との協働 : 土石災害パトロールを実施予定						評価 B
	所管課意見	当該溪流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている要配慮者利用施設及び避難所が立地しているため、速やかな土石災害対策が必要である。					採択状況 ○	総合評価 A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

**位置図**

**事業位置**

**流域概要図**

土石流基準点(砂防堰堤計画位置)  
流域面積 A=0.1km<sup>2</sup>

**①保全対象**

被害想定

顕真学院 倉科公民館 倉科公民館

県道白石千曲線

(一)三滝川

**②荒廃状況**

**③荒廃状況**

**④荒廃状況**

**事業概要説明図表**

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	矢ノ口沢は、千曲川右岸に位置する三滝川の支川であり、土石災害警戒区域内には保全人家153戸、要配慮者利用施設 障害者支援施設の顕真学院や避難所の倉科公民館、県道白石千曲線等が含まれおり、砂防施設整備の必要性がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	地域からの直接的な要望はないが、地元には過去に災害があった溪流との認識があり、地区役員からは砂防施設の整備を望まれている。
③事業説明等の経緯	平成20年2月に土石災害防止法に係わる指定の説明会を実施した。また、平成30年4月に地元区長等に事業概要を説明した。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	詳細設計時に検討予定。
⑥地域活性化への影響と配慮	土石災害の防止により安全性が向上し、若者の定住化や地域間交流が促進され、地域の活性化が期待される。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 138° 10' 41.7"

東経:E 36° 31' 52.2"

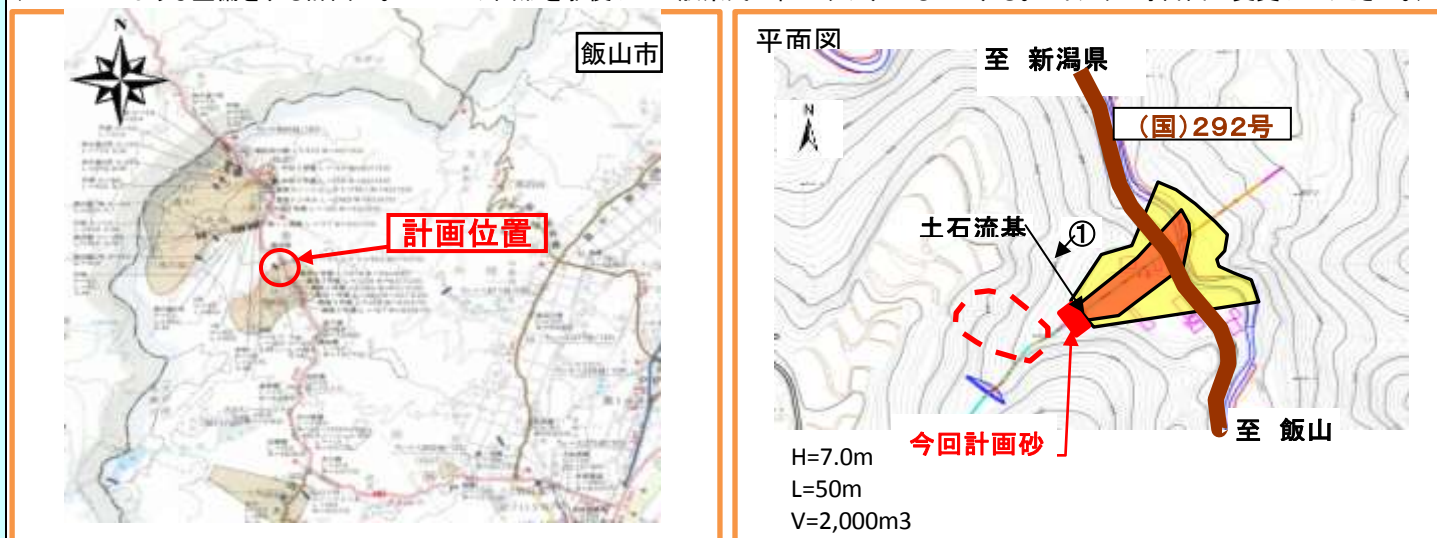
(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)濁池北沢(にごりいけたざわ)				
事業毎の通番	8	市町村名	飯山市	箇所名(ふりがな)	富倉(とみくら)			
事業目的	飛戸川は砂防河川松田川に流下する土石流危険渓流である。第三紀層の砂岩泥岩互層で、河床は平均約12度の急勾配である。中流域では古い崩壊痕跡が見られるほか、一部で溪岸浸食が生じている。流域内には土石流対策施設が整備されておらず、土石流災害防止法に基づく土石流災害特別警戒区域が国道にかかっており、土石流災害警戒区域内に第一次緊急輸送路等の保全対象がある。本事業では土石流対策として砂防堰堤を整備し、土石流災害に対する防災機能の向上を図る。							
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法				
関連する事業、計画等	-							
保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全対象: 国道292号(第二次緊急輸送路)、北陸新幹線避難トンネル避難場所							
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	2023(平成35年度)	費用対効果	1.55		国庫	その他	県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基			450,000	225,000	0	202,500 22,500	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行経費の減少 想定される土石流を捕捉する施設の整備により、土石流災害に対し第二次緊急輸送路の保全が図られる						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進 土石流災害特別警戒区域の指定が解除される						
評価の視点	必要性	【保全対象: 人家】 【保全対象: 公共施設】 国道292号(第二次緊急輸送路)、北陸新幹線避難トンネルの避難場所 【保全対象: 要配慮者利用施設】 【避難場所】 国道292号					評価	B
	重要性	【災害履歴】 平成30年4月 【交通影響】 大(国道292号)孤立集落富倉地区、北陸新幹線避難トンネルの避難場所 【位置付け】 土石流危険渓流、第二次緊急輸送路					評価	A
	効率性	【費用対効果】 B/C=1.52 【早期効果発現】 事業期間5年(土砂量約10,000m <sup>3</sup> ) 【工法等比較検討】 渓流調査実施済 【総合調整】 保安林について林務課と調整済					評価	A
	緊急性	【地形地質】 脆弱な地質(砂岩泥岩互層) 【流域植生】 倒木が多数 【勾配】 12° 【土砂整備率】 50%(施設あり) 【危険地区】 土石流災害特別警戒区域					評価	A
	計画熟度	【情報共有】 飯山市広報等を利用周知予定 【地域要望】 平成30年4月に富倉区より要望あり 【地域合意】 地元説明会8月予定 【住民参加】 富倉区による自主防災の取組みあり					評価	A
	所管課意見	当該渓流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている緊急輸送路が立地しているため、速やかな土石流災害対策が必要である。				採択状況	○	総合評価 A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

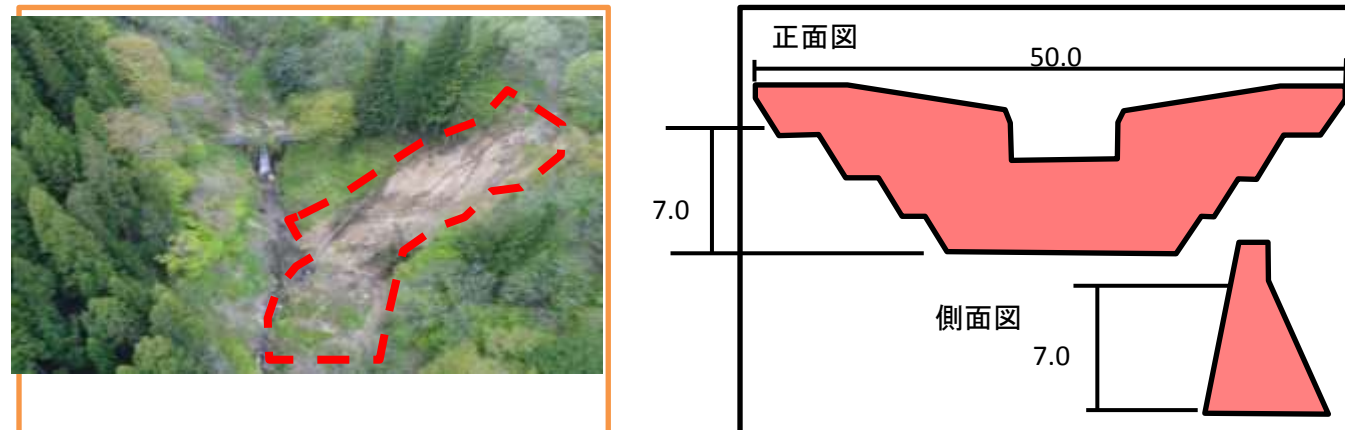
【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)

(どこでどのような整備をする計画か。コメントや図形を駆使して一般県民にわかりやすいものとする。レイアウト等自由に変更してください。)



【整備の必要性がわかる状況写真等】

(なぜ整備が必要か、どのような整備を計画しているか。コメントや図形を駆使して、一般県民に分かりやすいものとする)



事業概要説明図表	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	飛戸川は砂防河川松田川に流下する土石流危険渓流である。第三紀層の砂岩泥岩互層で、河床は平均約12度の急勾配で、土石流危険渓流である。中流域では古い崩壊痕跡が見られるほか、一部で溪岸浸食が生じている。流域内には土石流対策施設が整備されておらず、土石流災害防止法に基づく土石流災害特別警戒区域が国道にかかっており、土石流災害警戒区域内に第二次緊急輸送路等の保全対象がある。
事業周辺環境	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成30年4月に本渓流部にて、崩落土砂が堆砂していることから、下流の保全について対策する旨の要望が出されている。
	③事業説明等の経緯	平成30年4月に地元区に説明済。
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	渓流調査時には貴重種等確認されず 詳細設計時に検討予定
	⑥地域活性化への影響と配慮	施設整備により北陸新幹線の避難所が保全され地域の安全性が向上するほか、第二次緊急輸送路が保全され広域的な災害対応機能が強化される
	⑦その他	
		事業代表地点の緯度経度



(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂)越ノ前沢(こしのまえさわ)		
事業毎の通番	9	市町村名	麻績村	箇所名(ふりがな)	上町西(かみまちにし)	
事業目的	全体の流域面積は0.016km <sup>2</sup> と狭いが、上流域には倒木、転石が多数あり、土石流災害が懸念されるため土石流対策が望まれている。下流域の保全対象としては、人家41戸以上に加え、要配慮者利用施設(麻績保育園、障害者福祉施設やまぼうし)、地域防災計画に位置付けられている避難場所(地域交流センター)、緊急輸送路に指定されている国道403号、又JR篠ノ井線及び聖高原駅があり、災害時に必要とされる公共施設も多数あるため、砂防堰堤工により流出土砂による被害を防止し、民生の安定を図る。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法		
関連する事業、計画等	なし					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家41戸、要配慮者利用施設、国道460m、県道120m、村道3330m、JR鉄道600m					
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)		
完成年度(見込み)	2023(平成35年度)	費用対効果	23.3	国庫	その他	
全体事業内容(主な工種)	・砂防堰堤工 1基			300,000	150,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	・保全対象への土砂流出の抑制 ・災害に強い地域				
	間接的効果(定量的・定性的)	・安全・安心な生活				
評価の視点	必要性	○保全対象(人家) : 41戸 ○保全対象(公共施設) : 9箇所 ○保全対象(要配慮者利用施設) : 2戸 ○保全対象(避難場所) : 1戸			評価	A
	重要性	○交通への影響 : 国道403号、県道丸子信州新線、JR篠ノ井線への影響大 ○地域防災計画上の位置付け:あり			評価	B
	効率性	○費用対効果(B/C) : 23.33 ○事業期間 : 5年間 ○工法検討 : 計画中			評価	A
	緊急性	○流域の地形、地質:地質が脆弱(泥質~礫質(Ngs)) ○流域の植生:倒木が多数 ○平均河床勾配・土砂整備率:勾配20° 整備率0% ○危険地区:土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地域の取り組み:麻績村より要望あり ○地域の合意形成:事業目的について合意 ○住民との共働:麻績村独自でハザードマップを作成			評価	B
	所管課意見	当該渓流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている要配慮者利用施設及び避難所が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要である。			採択状況	○
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。					
総合評価	A					

事業概要説明図表

### 位置図

越ノ前沢(上町西)

### 流域概要平面図

### 流域概要図

流域内倒木状況

### 上流域転石状況

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	保全対象区域は、麻績村の中心街に位置しており、住民が多く、かつ、公共の重要施設が多数あることから、麻績村からの対策要望がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	平成29年度麻績村より要望あり。
③事業説明等の経緯	平成19年3月土砂災害防止法指定
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	しあわせ信州創造プラン2.0 長野県総合5か年計画(4.1県土の強靱化)
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	詳細設計時に配慮についての検討の予定。
⑥地域活性化への影響と配慮	地域住民は対策に関しての関心が高いため、避難体制の整備及び施設の維持管理について、今後地元説明会等で積極的な関与を促したい。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 138° 02' 42" 68

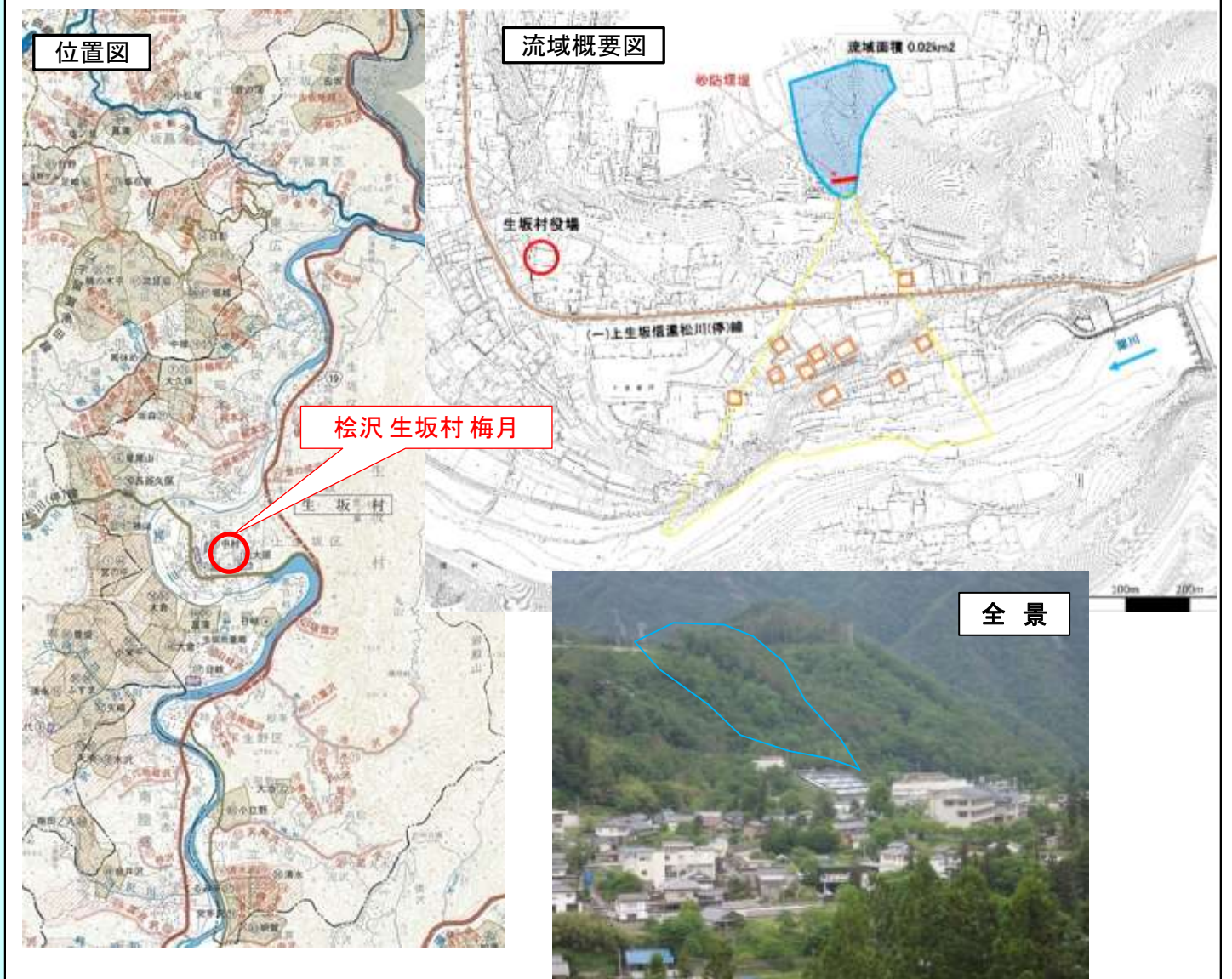
東経:E 36° 27' 21" 48

(様式2) 新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	通常砂防事業		路河川名等	(砂) 桧沢			
事業毎の通番	10	市町村名	生坂村	箇所名(ふりがな)	上生坂(かみいくさか)		
事業目的	桧沢は、土石災害警戒区域に指定されており、区域内に保全対象として県道上生坂信濃松川(停)線(震災対策緊急輸送路(第二次))が存在するとともに、人家9戸が位置している。平成16年10月には土石の流出も確認されており、豪雨時に土石流等が発生すれば、非常に大きな被害が発生することが想定される。 そこで本事業は、桧沢に砂防堰堤1基を施工し、被害を軽減することを目的とする。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	砂防法			
関連する事業、計画等	地域防災力加速化支援事業						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	県道上生坂信濃松川(停)線【震災対策緊急輸送路(第二次)】、人家9戸、梅月公民館口						
着手年度	2019(平成31年度)	事業期間	7年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2025(平成37年度)	費用対効果	4.4		国庫	その他	
全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤工 1基			300,000	150,000	0 135,000 15,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	土石流災害から震災対策緊急輸送路及び人家9戸を保全 土石災害防止法に基づく土石災害特別警戒区域の解消					
	間接的効果(定量的・定性的)	中山間地域の活性化 土石災害特別警戒区域の指定が解除される					
評価の視点	必要性	○土石災害警戒区域内人家戸数：9戸 ○土石災害警戒区域内の公共施設：梅月公民館、村道 ○震災対策緊急輸送路(第二次)：県道上生坂信濃松川(停)線				評価	B
	重要性	○過去の被災履歴：平成16年10月 台風23号による土石流出あり ○交通遮断による地域経済への影響：震災対策緊急輸送路、村道、農道の遮断による影響あり ○地域防災計画上の位置づけ：土石災害防止法による位置づけあり				評価	A
	効率性	○費用便益費(B/C)：B/C = 4.4 ○事業期間：7年間(H31~37) ○工法等の比較検討：施設配置について比較検討を実施				評価	A
	緊急性	○流域の地形、地質：地質が脆弱(第3紀層) ○流域の植生：放置林 ○平均溪床勾配：20° ○土石災害防止法の指定区域：特別警戒区域あり				評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者との現地確認を実施 ○地域の取り組み：村から事業計画に対して要望あり ○地域の合意形成：村と事業目的について合意形成されている ○住民との協働：防災体制(ハザードマップ)が整備されている				評価	B
	所管課意見	当該溪流の保全対象には地域防災計画に位置づけられている緊急輸送路が立地しているため、速やかな土石災害対策が必要である。				採択状況	総合評価
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。						

【位置図、平面図、構造図等】



事業概要説明図表

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	桧沢は、東筑摩郡生坂村上生坂地区を流れる溪流で、桧沢は土石流危険溪流ランクIに指定されている。平成20年度に指定された土石災害警戒区域内には、9戸の人家と、震災対策緊急輸送路(第二次)となっている県道上生坂信濃松川(停)線がある。平成16年10月の台風23号では、桧沢周辺において多数の土石流出が確認されており、対策が望まれている。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	役場を通じて地元要望が継続して上げられており、土石災害への防災意識も高い地区である。	
③事業説明等の経緯	関係者への事業説明を実施。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	既存資料では稀少な動植物は確認されていないが、今後説明会等を通じて確認していく予定。	
⑥地域活性化への影響と配慮	土石災害対策の整備により、地域住民の安全・安心を確保するとともに、地域の活性化が図られる。	
⑦その他	砂防指定地申請予定	
	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 137° 55' 56" 東経:E 36° 25' 33"